

名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2022年09月07日

学部・学科名 世界教養学部・国際日本学科

担当教員氏名 徳本浩子、マルシャレンコ・ヤコブ

1. 区分	語学研修
2. プログラム名称	日本語学科／国際日本学科 夏期カナダ英語研修
3. 渡航先国名	カナダ（オンタリオ州）
4. 派遣期間	2022年08月07日（日）～ 2022年08月29日（月） 23日間
5. 派遣先教育機関名	セントローレンスカレッジ
6. 参加学生数	29名
7. 派遣目的	英語圏の国で英語を集中的に学ぶとともに、その国の文化を直に学び、経験すること。
8. 派遣内容	3週間に渡って英語授業を受け、カナダの歴史、文化、社会について学び、先住民族や多文化共生社会をテーマにしたゲストレクチャー、ワークショップ、課外活動に参加しました。また、カナダに対する理解を深めるため、歴史的に重要な施設（Bellevue House、Fort Henry など）やカナダ首都であるオタワ、ナイアガラの滝へのツアーも行われました。
9. 成果	参加学生の英語を話す、聞く、読む、書くという4技能が向上し、「英語を使う」自信も増しました。また、海外に初めて渡航した学生も多く、「異文化」の体験ができました。カナダでの3週間生活、かつセントローレンスカレッジ学生宿舎での滞在を経て、「留学」を体験でき、今後中期・長期の留学へ挑戦したいと述べる学生が増えました。
10. 備考	

以上

約2年ぶりの実施となった国際日本学科主催の短期語学研修は、例年までのオーストラリアではなく、カナダのオンタリオ州にあるセントローレンスカレッジ (St. Lawrence College) という所で実施された。3週間という長いようで短い留学だったが、とても充実したものになった。自身にとって初めての海外経験となった今回の留学は、世界を知り、そして改めて日本を知る機会となった。本レポートでは、授業の内容、週末に行われたツアーの2点について述べる。

まず、授業の内容について述べる。授業と言ってもその内容は多種多様であった。英語のアクセントを身につけるために英語の韻を学ぶ授業、発音を良くするために英語の早口言葉を練習する授業、より洗練された文章が書けるようになるための複文や重文についての授業、カナダの先住民族について直接先住民の血を引く方から話を聞き彼らに対する理解を深める授業など、毎日違った視点から英語やカナダについて学べる授業が行われた。そして、どの授業でも日本で学んでいる時よりも英語で話す場面や聞き取らなければならない情報量が圧倒的に多かったので、授業を通して留学前よりもスピーキングやリスニングに対する抵抗をなくすことができたと思う。

次に、3週間の研修期間中に行われたツアーと呼ばれたカナダ観光について述べる。3週間のうち、希望者は1週目と2週目の土曜日に協定校が計画したツアーに参加することができた。行き先はカナダの首都であるオタワと、世界三大瀑布にも数え上げられるナイアガラの滝である。1週目の土曜日に行われたオタワツアーでは、カナダ歴史博物館と連邦議会議事堂を見学し、自由時間にはそれぞれが市内を観光した。観光できる時間は短かったが、歴史ある町並みを眺めたり、多くの人で賑わうマーケットを訪れたり充実した時間を過ごすことができた。また2週目に行われたナイアガラの滝ツアーでも、1日があっという間に感じてしまうほど楽しく、貴重な経験をすることができた。ナイアガラの滝のボートツアーでは眼前に広がるナイアガラの滝の圧倒的な迫力を体感したり、自由時間に自ら進んで挑戦したナイアガラジップラインではナイアガラの滝の雄大な自然を全身で感じたりと、様々なアクティビティを経験することができ一生に残る思い出を作ることができた。2週にわたり実施されたこれらのツアーは、カナダを楽しみながら日々の勉強の息抜きをすることができる良い機会となった。

最後に、今回のカナダ研修は自身にとって初めての海外経験になったが、この研修に参加をすることができて本当に良かったと思う。この留学を通して、日本にいただけでは気づけなかった日本の良さに気づき、知ることができなかった海外から見た日本のイメージ、海外で求められる力などを知ることができた。国際日本学科の学生として、今回の留学で知ることができた日本の良さや改善すべき点、異文化コミュニケーションを通して学んだことや経験したことを今後の学習にも活かしていきたいと思う。

今回のカナダ語学研修において様々な知識を得ることが出来ました。海外研修の授業カリキュラムとして、座学はもちろん、アクティブな授業も多くありとても充実した 3 週間でした。アクティブ活動の中には、博物館見学やハイキングなど様々な場所へ訪れました。

博物館見学の授業では、初めにクイズの紙が配布され博物館の中にあるキーワードや館内に設置されている物品からヒントを得て回答していくというを行いました。

答えを導き出すために、いかに自分の言語知識と想像力を駆使するかが問われました。

ハイキングでは、湖周辺に訪れました。このハイキング先には鳥やリスなどの野生動物がおり、普段近くで見ることのできないような動物を近くで観察することができ、とても新鮮でした。学校行事の中でハイキングを行うことは小学生以来なかったため懐かしい気持ちになったのと同時に、コロナ禍で渡航制限を余儀なくされており日本では感じることでできない海外の空気を肌で感じる事ができ、気持ちが高揚しました。

この語学研修を通して基礎英語を勉強することの重要性を知ることが出来たとともに、自分の目や耳で実際に触れることの大切さをより感じました。

やはり自ら得たものは記憶に残りやすく、自分のためになったということを経験して帰国してから改めて実感しました。

この経験をもとに、社会人になっても教えてもらうだけでなく、自ら考え知識を習得したうえで行動に移していきます。

カナダ研修を振り返って

新型コロナウイルス感染症の流行によって課せられた規制というものは、海外を夢見る私たちにとっては重く苦しいものでした。未だ終息には至っていないものの、徐々にその規制が緩和されてきたことによってようやく私たちは2年ぶりに短期語学研修を行うことが出来ました。また、過去2年間の振り替えとして今年度に限り8月にカナダで研修を行うことが出来たこともあり、私たちにとって特別な思いがこもった海外研修になりました。

私自身、カナダはもちろん日本と13時間も時差がある遠く離れた国に訪れたことは初めてでした。また、飛行機に乗ることすらとても久しぶりだったため、出発する前は無事に行き帰ってこられるか心配だったのを覚えています…(笑) カナダに着いてから最初のうちは自分の言葉が相手に通じないことへの緊張や不安があり、ハンバーガー屋で注文することさえ躊躇ってしまう程でした。また、いろいろな学年の世界教養学部の学生が参加していたこともあり、生徒同士でまだ打ち解けてはいない状況でした。しかし“海外の雰囲気”というものに慣れてくると普段の名外大での授業で培ってきた英語力やコミュニケーション力を発揮することが出来るようになり、現地の人ともっとコミュニケーションをとりたいと思えるようになりました。さらに、研修先のセントローレンスカレッジでの授業やナイアガラの滝などへのツアーによってクラスや学科、学年の垣根を越えた友情も生まれました。また、私は国を越えた友人もたくさん出来ました。ただの「短期語学研修」という名前では語り切れないほど貴重で楽しい思い出を作ることが出来ました。

今回の海外研修で学んだことは挙げきれないほどありますが強く感じたことは、異国の地に身を置いてみることの大切さです。日本で生活していても海外について学べることはたくさんあります。しかし同じほどに、実際に足を踏み入れてみないと分からないこともたくさんあります。自分の言葉が相手に伝わらないことへの不安やもどかしさ、自分とは違ったアイデンティティを持った人の考え方や行動、日本という国の便利さや特徴などは肌で感じる以外に学ぶ方法はありません。また、私たち自身がまず日本のことをもっとよく知ることが大切だと感じました。カナダの学生は皆自国の歴史や風土、文化をよく理解しており、私たちに分かりやすく説明してくれました。しかし日本のことをよく理解し、詳しく留学生に説明出来る日本の学生は海外に比べて少ないのではないかと感じました。海外に勉強しに行くことでそういった気付きをも得られるとは思いませんでした。このことから私を始め、名外大の多くの学生がまず日本のことをよく学び、自国のことを海外の人に語れるようになっていければいいなと思いました。たった1ヶ月の研修は私にとって短いものでしたが行く前の私と今の私では大きく違います。これらの経験は、これからも国際日本学科生として日本と海外の文化や歴史、言語を学んでいく上で私の中の大きなカギとなります。

最後になりましたが、国際日本学科の先生方を始め、JTBの方々、セントローレンスカレッジの方々、今回の海外研修を行うにあたって多くのご協力をしていただいた皆様に感謝いたします。